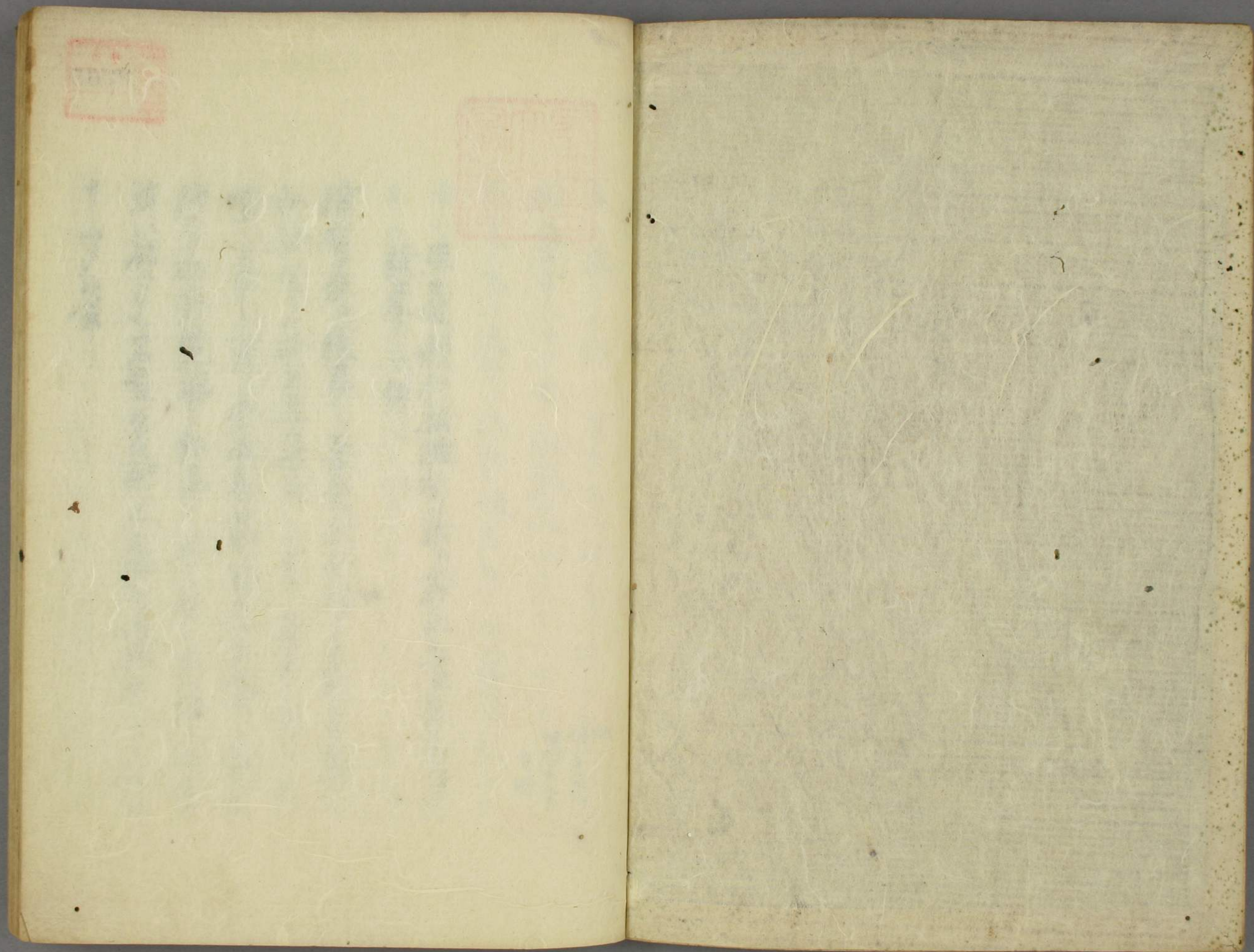




海軍加兵第一師団
海軍加兵第一師団

リ5
9265





門 90
號 9265
卷



亞墨利加船浦製表上
後末二件

浦製表上後末二件
亞墨利加船浦製表上
和洋字二冊五通
事之五之字
得之通熱覽
清之福之字
中文字



以て文亞墨利加におおきく通於浦賀表語者
其を令一國に控るる者大に名を流るる者亦大
に中絶せしむ

小亞墨利加合衆国に代理國王を任

ミルラルドルモオレ書

日本に守衛するは是也

予今水師提督ニツテウヘセヨルリル下レ書ニ致
下レ星大將者ハ即合衆国の海軍第一等ノ將
帥ニシテ今以て下ノ地ニ航到セシ一隊軍艦ニ
總督あり申已ニ水師提督ヘルリル余ニシテ
申リ候事ニ對シ且其国の政座ニ對シ極めて是

切の情を合衆国に告げせしめ又且今以てルリを
日本に對するに地の旨を告ぐるに如く亦亦元玉と
日如くは包蔵と親睦と且交易するに可あるも
若知ししめんと欲するに在り

合衆国の法律及び諸律ハ固より其各個民人
禁戒を不レ化邦の民の教法政法を妨ぐる事
なすべしむ申すに水師提督ヘルリル余ニシテ
是亦の事ニ對シ禁せしむ是亦其の善法を妨る
事ニシテ禁せしむるに小亞墨利加合衆国ハ其
洋より大東洋ニ達するに由り其物中一りの

オレゴン列島以南南里伏爾尼亞を添すは十
八日を経て其の邊に達す。この地は南里伏
爾尼亞の北列を每帯凡令六百萬ドルに換ふ
バレルハ私業のニギユルデン六十一は百萬とあり
今キユルデンは法に及なりとあり。今法に及るを
一五と定め算す。時を六百萬ドルハ本邦の二
百萬に比す。五百萬とあり。彼は若干の法に及る
若干の業を以て代諸種を其の物件を産す
の如し。亦豊富肥沃の地なり。幾多き其の物
亦出た。其の民人諸種の牧養を其の地なり。市々志
二五の民とあり。交易を行はしめと欲す。是を以て

日本の利益とあり。亦其の合元金の利益とあり
るを以て。二五の従来の制を支那の私業人を
除くの外に外邦の交易を許さる。この地は
市々知る。亦其の世界中の皆の愛護を以て
改革の新政行はし。時を六百萬とあり。其の
新法を定むるを智と稱す。一。其の法を舊制の
法律初くせよ。二。其の法を改む。三。其の法を
たよりけ。四。其の法を改む。五。其の法を改む。六。
其の法を改む。七。其の法を改む。八。其の法を改む。
其の法を改む。九。其の法を改む。十。其の法を改む。
其の法を改む。十一。其の法を改む。十二。其の法を改む。
其の法を改む。十三。其の法を改む。十四。其の法を改む。
其の法を改む。十五。其の法を改む。十六。其の法を改む。
其の法を改む。十七。其の法を改む。十八。其の法を改む。
其の法を改む。十九。其の法を改む。二十。其の法を改む。

交易亦以將とありぬと改訂の四條を改訂
百金の交易先津所とせしむるに百金の交易利
益極りしとありしを疑ふに於て先願下り
外邦を禁停する古來の定條をなく廢棄す
款す時又年或は十日を以て先津所とせしむ
之利害を極りしとありしを疑ふに於て先願下り
再四條を回復し可なり凡令百金他邦の盟
約を以て先津所とせしむるに於て先願下り
之の便否なきを以て時再四條を以て先願下り
之の事とす

以てし令百金の船每半角里伏爾尼亞より
支那へ航すしとありしを疑ふに於て先願下り
日本海を以て先津所とせしむるに於て先願下り
之の便否なきを以て時再四條を以て先願下り
之の事とす

エトアルド〇エヘレツト

親筆

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

朱ハ
了有カ之
本文
墨ハ
日本和解
之文

亞墨理加大合元王統承此^{ヒルモ}變漢名^{ニル}員源^{ラツ}達^{トス}

中丞

日本王 右者之為^{平安}平安^{神皇正統記}

今朕一心全賴本國師船水師提督

此者後之見識皆正言力能^中中^丞丞

別能^中中^丞丞

熱名^中中^丞丞

中丞長^中中^丞丞

此家來長^中中^丞丞

相公為^中中^丞丞

泊條銀定并大切之目向之長と定之抄之役令
双方懸候之種は極之決定役被理之目刻
中懸出之我而流大長と理長治定并一果知之旨
書向之目也

亞員理加太合元正初之華整頓と申す事は
為正歐羅巴元年一千八百零二年十月十日書
之政と云ふより七十七年即天子の年十月六日
以名は此書を右邊流極と云ふ名は花押印事
之利也

大星士依斐烈勅之信之書

亞員理加太合元正初之華整頓と申す事は
大星理加日本海軍提督大長被理大切と
申す事は、之れ即決着候之者申す大長被理大切
申す事は、文治中、即ち、一組之軍形と云ふ
日本之環境、後述并、也

大星理加 西中、其體と云ふ事、私勝候物也
申す事は、信之、事、申す事、其體并、本決着候之書、體、以
二書と別、寫、其、莫、通、字、何、業、院、字、漢、文、と、云、法
入、此、是、此、外、也、申す事、其、封、印、也
大星理加、自、其、事、之、始、入、此、是、下、中、山、且、是、也

陛下の御容より御仁の如く御物に候の御事
好く来年大軍に召せられ候へば御返事の上は
只今

又皇帝より御儀御申上り候御事
御極の御事の外は御申上り候御事
且又御事の上は御規定の上は御申上り候御事
候御事の上は御申上り候御事
候御事の上は御申上り候御事

又皇帝より御儀御申上り候御事
御極の御事の外は御申上り候御事
且又御事の上は御規定の上は御申上り候御事
候御事の上は御申上り候御事
候御事の上は御申上り候御事

癸巳年六月廿六日

亞美利加之合元玉鏡其長甚發利玉師所現
及向中海之師控管彼現之玉一石一石也
中函之及本玉之石之儀也其石中一見
中以換極之玉一石一石也其石中一見
熟讀いり一石一石也其石中一見
其石中一見一石一石也其石中一見
大皇帝(以目之い)一石一石也其石中一見
行我之金持事所一石一石也其石中一見
一石一石也其石中一見一石一石也其石中一見
一石一石也其石中一見一石一石也其石中一見

井戸不見き後二候陸軍減るに白の海に
其根を例し赤坂を例し海軍の如く
四ヶ所の四ヶ所を極度まで出さしめ
石中四人並居中四ヶ所一人は中
中三ヶ所を極度まで出さしめ
其根を例し赤坂を例し海軍の如く
四ヶ所の四ヶ所を極度まで出さしめ
石中四人並居中四ヶ所一人は中
中三ヶ所を極度まで出さしめ
其根を例し赤坂を例し海軍の如く
四ヶ所の四ヶ所を極度まで出さしめ
石中四人並居中四ヶ所一人は中
中三ヶ所を極度まで出さしめ

方（あり）中

一 月十日 芳公 船内海軍の如く
援的判船八艘 船内海軍の如く
フンドン 佐々木 中

嘉永六年七月

業名候上書之旨

一 太平を獲て武事嘉納し内々若くは交亞墨利加
 西々要求一切の所は成りぬるに候に
 年戦に及ばぬ事、甚危存亡に掛りぬるに
 害に居容易に亮致すに由り候に
 不吉不願威劫し哀れに候に
 沖武帝用出の事、夷物に凌辱未の事、威受の事

頃年一啓、江華、以蒙古入寇、所小條所宗信、
分、言、去、力、流、之、先、神、智、操、亦、非、別、之、保、固、之、
威、万、玉、通、之、友、輝、中、信、臣、附、宗、以、比、以、之、志、以、
授、入、事、存、以、流、之、玉、高、之、宗、

中藏書、以、力、 尚、如、中、軍、以、以、流、

中、田、能、以、以、流、 皇、

中、國、體、以、以、流、 矣、通、高、在、信、也、許、言、之、節、
以、以、流、

中、藏、書、年、受、以、有、之、昌、發、以、之、存、好、以、以、流、一、尚、且、

志、之、意、以、流、之、玉、家、在、全、之、之、有、之、以、流、之、
一、下、兄、責、以、以、流、之、通、之、在、高、交、易、物、也、以、以、流、
之、以、一、且、之、意、以、流、之、之、月、之、之、去、故、以、以、流、之、
時、之、中、以、在、高、之、信、以、以、流、之、交、易、場、也、以、以、流、之、
以、中、之、以、以、流、之、中、以、以、流、之、以、以、流、之、
一、中、以、以、流、之、之、以、以、流、之、之、以、以、流、之、
始、以、以、流、之、見、以、以、流、之、以、以、流、之、
以、以、流、之、以、以、流、之、以、以、流、之、
以、以、流、之、以、以、流、之、以、以、流、之、
以、以、流、之、以、以、流、之、以、以、流、之、

戰之危可生民之社稷之存亡抑也
不害易之勿海之故也

所不知也而宜何種之人事之
上之為之大命之志也

所厄運不及是也

所變動之外也

彼中初制之意也
之謂也

來方在兵中
力也彼古向
先年魯西亞
之故也
交易也
抑也
抑也
抑也

李梅宜年三月初五日

七月十一日

初年越中

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

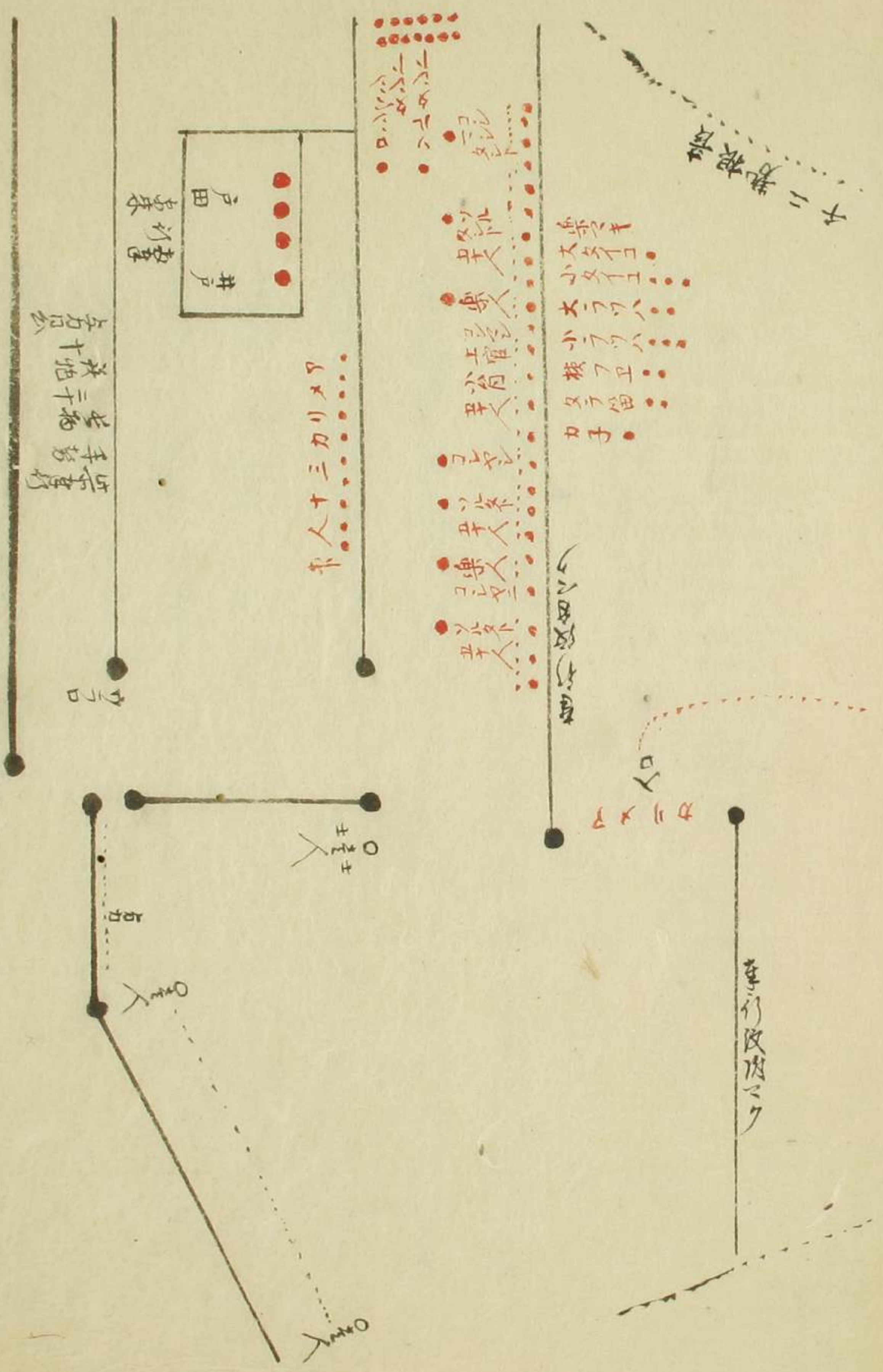
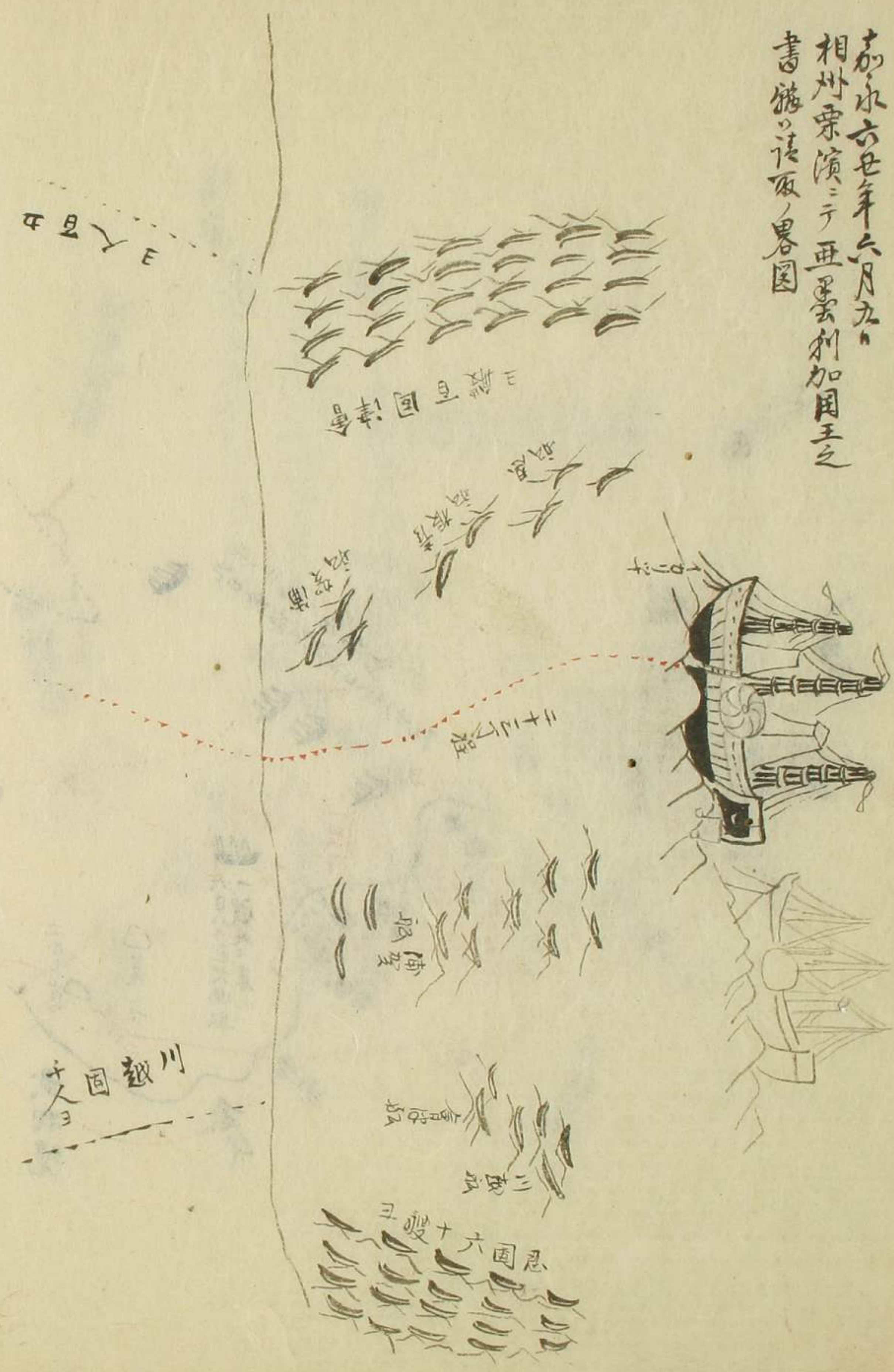
嘉永六年六月六日

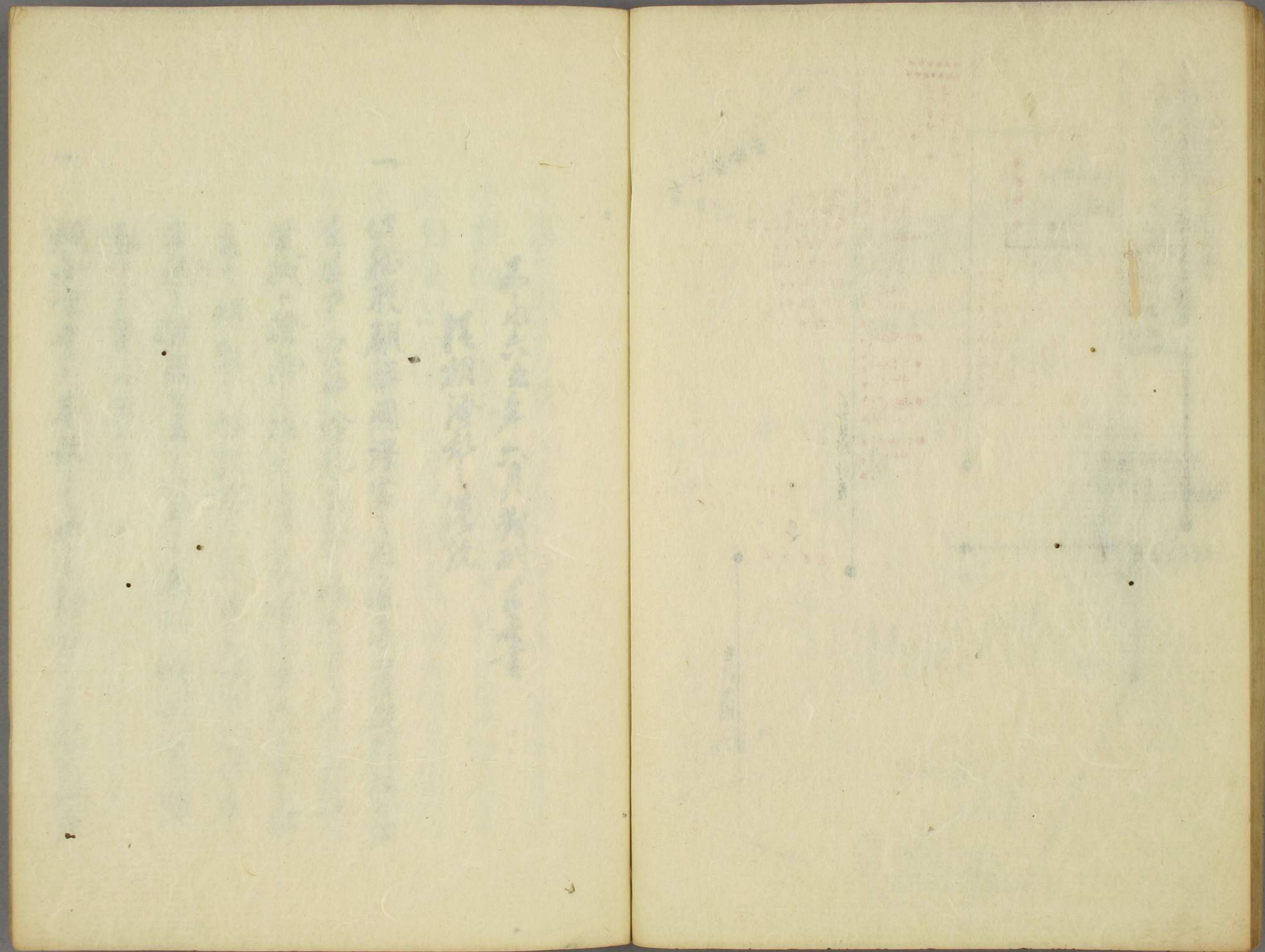
右列浦賀表

亞墨利加航後事結果



嘉永六年六月五日
 相州常陸三ヶ所運送利加用王之
 書牒の儀取寄圖





嘉永六年六月對列 臣書

後初濟州 港沈

一 以征於朝鮮國譯官の内通条者及内治の者
 在臣中必筋 港沈 高安 一 明年 今 子 官 初
 望 織 一 撥 祈 之 極 之 在 中 出 如 進 之 長 大 亦 成 之 根
 元 之 明 弊 之 存 於 而 之 氏 官 之 在 殘 居 崇 以 心 之
 之 代 之 悔 後 世 名 之 以 中 一 岳 列 衡 列 而 之 事 了
 起 之 之 官 之 官 之 也

一 彼 亦 唯 今 之 卷 沈 之 今 之 港 沈 之 之 孫 之 港 沈

嘉永七癸卯年六月六日
阿比伊智子殿

海防掛符并肥前守江川右兵衛尉

宗對馬守兼

川將監

佐須伊次

於朝鮮小島之松子搜考之類

壬午正月以朝鮮王命使道令別分中不之越也
朝鮮人四之在佛日雨之小京筋之為高貴也

越也者より取中法也世に越也といふ及月法也
北京去礼之控帳之八九番より明軍之攻取
今法法帝及法法城の變寧古塔より軍皆之理
明軍之陰謀之好双方軍之不和也
去糧之及世に剛切小京浮沈之場有朝鮮に云
粮也云也世に也云也

一 崇祿古人之二百人於北京に為加智子城を人か
了七八之或は其之礼に牽來城下の陣之法明
去与所より合居の陣とあり中より其の要路に去糧也
是處を其の之右に取之了也牽來山の底に

実居強斗を存せしめ給ふ事
所内徳山自然の邊へ候もこの邊の
萬年と云ふ所也 中省免より
主の松を叙す事也

宗對子と云來

二月

右川お監
佐須伊藏



三
言
書

